

会報
獅子の如く
ししのごとく

2021年8月25日
第24号 地域版
発行
獅子の如く編集部



発行責任者 木村 徳彦
広報部 清水 美穂
監修 石田 周一
協力: 吉祥院六齋保存会

伝統文化の発展と衰退

地域の伝統文化の担い手育成の課題
次号(25号)会報「獅子の如く」で報告

連載予告

吉祥院六齋歴史研究会では、「地域の伝統芸能(六齋念仏)の発展と衰退」について調べました。研究会として地域の伝統芸能についての探求は必須であると考えています。特に「衰退」につ

いては重要な研究課題の一つです。何千年も続く伝統芸能がなぜ縮小し、また消滅していくのか。このことを学ぶことにより、吉祥院六齋念仏踊りの伝統芸能を後世に残すヒントになるものと考えています。

調査報告書は、吉祥院六齋念仏の保存と担い手育成問題と、六齋念仏踊りの継承・保存の活動を通して、まちづくりと文化との関連性についても明らかにします。

吉祥院六齋保存会では、現在の活動において、一番の課題が担い手育成の取り組みです。

その中で発生している問題を地域住民の生活とまちづくりの関連を踏まえながら分析を行い、三つの観点から明らかにしています。

一点目は「吉祥院地域のまちの変遷について」

二点目は「六齋念仏に参加する人の意識について」

六齋念仏とは



三点目は「六齋に参加する各世代間における意識格差について」

この三つの観点から六齋の担い手育成活動において発生している問題がそれぞれ関連性を持ったものであることにも明らかにしています。

六齋とは、仏典に説く六齋日のことで月のうち「八・十四・十五・二十三・二十九・晦日」の六日間は、悪鬼が現れて人命をおびやかす、不吉な日として、人々は精進齋して身を慎んだといわれています。

六齋念仏は、平安時代に空也上人が一般民衆に信仰を広めるため、鉦や太鼓を叩いて、踊り跳ねながら念仏を唱えたのが起りといわれ、後のこの六齋日に行われるようになったことから、六齋念仏

と呼ばれるようになってきたと伝えられます。

その後、室町時代中期頃から次第に風流化し、特に能や狂言、歌舞伎等を取り入れた娯楽性豊かな芸能になり、本来の六齋日とは関わりなく、盆の行事として伝承されて来たのが現在の六齋念仏です。

現在、京都市内には十数組の六齋念仏が伝承され、国の重要無形民俗文化財に指定されていますが、そのほとんどが様々な芸能を持つ芸能的六齋で空也堂系の六

「地域の伝統芸能(六齋念仏)の発展と衰退」を調査報告書として、次号(二十五号)より、会報「獅子の如く」で連載を予定しています。



齋といわれています。

吉祥院六齋念仏は、その代表的な六齋と言われています。

毎年、四月二十五日、八月二十五日夜に地元の吉祥院天満

重要無形民俗文化財

重要無形民俗文化財とは、衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など、人々が日常生活の中で生み出し、継承してきた無形の民俗文化財のうち、特に重要なものとして、国が指定したものである。

この指定制度は、1975年(昭和50年)に、日本の文化財保護法の改正によって実現し、1976年(昭和51年)5月4日に第1回として、30件が指定されて以来、2019年3月現在で、合計312件が指定されている。

宮で行われる六齋念仏の奉納は、長い歴史と伝統を持ち、京都の夏を彩る著名行事の一つとして、広く市民や観光客に親しまれています。



六齋研歴史研究会「獅子の如く」は吉祥院天満宮の大祭(四月二十五日、八月二十五日)に合わせて天満宮境内で配布していますが、令和二年八月より、地域限定版として発行することになりました。

コラム まつりの思い出

これは地域の伝統芸能を通じて、地域コミュニティをより深めます。広報部

ご理解のうえご協力くださいますようお願い申し上げます。

第2回「モンテ豆茂」早師久子さんに「まつりの思い出」の執筆をお願いいたしました。【2面掲載】



吉祥院地域は大変
私(わたし)は昭和四十二年に吉祥院に縁(縁)があつて「豆茂」に嫁(よめ)ぎました。

天神さんとわたし



京都市南区吉祥院車道町42-1 ☎ 975-691-3269

住みやすい地域だと思ひます。吉祥院の中央に木々に囲まれた吉祥院小学校と吉祥院天満宮があり、天神さんと呼ばれ、氏神様として親しまれています。歴史も古く、菅原道真の祖父清公が遣唐使の任務を終え、帰国された御礼に宮を建て「吉祥院」と名付けられたとお聞きしました。四月二十五日と八月二十五日に吉祥院天満宮大祭が行われ、境内にお店が出て賑わいます。



無形民俗文化財に指定されております。「六斎念仏踊り」が夜に始まります。子どもたちが鉦や太鼓に合わせ、獅子舞し、獅子が参上し、逆立ちバク転と進み、最後に出されるクモの糸は見事です。その糸を持ち帰り今でも大切にしています。夜になると同窓会が開かれ、高校生や大人まで、友だちに会えて楽しい一時を過ごせる微笑ましいお祭りでもあります。私も寄せてもらいます。吉祥院天満宮の宮司様には、地域の子どもたちに書始めや写生の展示等にご協力賜り、感謝し喜んでおります。

国の重要な無形民俗文化財に指定されております。「六斎念仏踊り」が夜に始まります。子どもたちが鉦や太鼓に合わせ、獅子舞し、獅子が参上し、逆立ちバク転と進み、最後に出されるクモの糸は見事です。その糸を持ち帰り今でも大切にしています。夜になると同窓会が開かれ、高校生や大人まで、友だちに会えて楽しい一時を過ごせる微笑ましいお祭りでもあります。私も寄せてもらいます。吉祥院天満宮の宮司様には、地域の子どもたちに書始めや写生の展示等にご協力賜り、感謝し喜んでおります。

最後に、菅原町の皆様が守り続けてくださった子どもみこしを地域の方々と一緒にみこし祭りとして行つてくださり、ありがとうございます。伝統ある行事を絶やさない様協力させていたいただき、守つて行きたいと思ひます。これからも宜しくお願いします。

昨年より、世界的に新型コロナウイルス感染拡大防止、三蜜除けの御祈禱をしてくださり、本当にありがとうございます。コロナウイルス感染拡大防止、三蜜除けの御祈禱をしてくださり、本当にありがとうございます。



吉祥院天満宮で毎年行われてきた六斎念仏踊りの六斎奉納が中止となり、二年目に突入した新型コロナウイルス感染症で今年も人が集まる催事の中止が余儀なくされる一方、市内の重要無形民俗文化財に指定された六斎講が新型コロナウイルスの影響で同じく開催を断念し、伝統や文化の継承を手探りにしている。六斎念仏は、主体的に伝えてきた人たちがいて今がある。これまでも戦争や疫病をくぐり抜けて継承されてきた。担い手不足が深刻となる中、コロナ禍で祭りそのものを取りやめた事例もあり、中にはそのまま消滅してしまった祭りもあると聞く。今回も同じような事態が発生するかもしれない。人が伝える六斎は、稽古などの準備をしながら実施するもので、二年間実施できない口入は大きい。六斎は世代を問わず地域のコミュニティづくりの一端を担ってきた。そうした場がコ

お店の紹介：

モンテ豆茂

ベーカリーのお店です。

「モンテ豆茂」は、JR西大路駅から南へ六二四メートルにあります。

吉祥院小学校の北側です。

ご夫妻でお店を切り盛りされておられ、可愛い雲団気のかかるお店です。

よく吉祥院グラウンドでラグビーの大会が、アンとか。

ご夫妻ともにラグビーの大会が、アンとか。

※ご来店前にお店にご確認してください。

営業時間
午前七時～午後七時
●定休日
日曜日・祝日
営業時間・定休日は変更となる場合があります。

★新型コロナウイルス感染症拡大により、営業時間・定休日記載と異なる場合があります。

モンテ豆茂 ☎ 075-691-3269

ナの影響で失われることとで、地域の文化や習慣を継承できないだけでなく、孤立する人が生れる可能性もある。六斎を通して、地域社会の中の人と人とのつながりがあること「祭り」が続けられる。コロナ禍で祭りやイベント等が中止になり、集まることが厳しくなる中、会報「獅子の如く」の紙面を通して、離れていても同じ想いを共有し、つながって行けたら幸いである。

獅子の如く 編集部